

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY Annual Report 2011

島根大学附属図書館年報



新たな附属図書館へ

梅雨でありながら台風に襲われるなど、もう言い古した表現ですが、気候がなにかとおかしくなっています。そんな中で、今年もまた年報をお届けすることになりました。

附属図書館は本館と医学図書館の2施設からなりますが、ともに滞りなく業務を遂行してきたことは、「動向」の記事からご理解いただけるかと思います。

大学のなかで図書館が果たすべき役割には流動的なものがあります。今後、ますます教育への関わりを深めることが要請される傾向にあり、そのとき図書館としてどのように対応するかが問われてくるでしょう。初年次教育への取り組みがまずは試金石となります。

研究面では、つねに問題となる電子ジャーナル経費の問題が、いぜんとして先が見通せない状況です。昨今の円高の恩恵と全学的理解のもとで、現状はなんとか維持していますが、将来はどうなるのか、経済情勢ともからんで難しいところです。

本年報の利用についてお願いがあります。目次からお分かりのように、後半には多くの「統計」データを載せていますが、実際にはあまり活用されていないのではないのでしょうか。

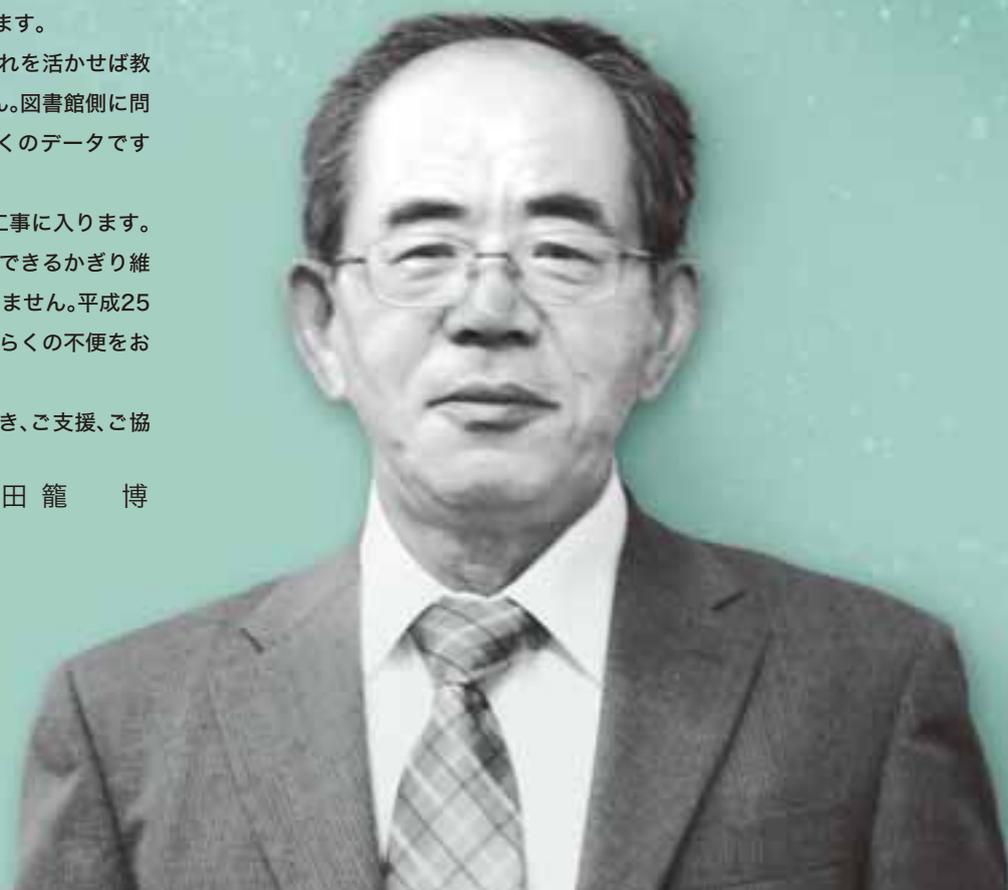
例えば、全体として入館者数・貸出冊数ともに増加の傾向にありながら、学部によっては意外な低い水準にとどまっているところがあります。その原因がどこにあるのか。図書館の蔵書に不足があるのか、学部の資料室の充実のためなのか、あるいは他に何かあるのか、いろいろと考えさせられます。

データはそのままでは単なる数字ですが、これを活かせば教育上の課題を見出す一助になるかもしれません。図書館側に問題があれば、もちろん解決に努めます。せっかくのデータですので、ぜひとも活用してください。

さて、本館は8月10日をもって閉館し、改修工事に入ります。貸出業務はほそぼそとですが続け、サービスもできるかぎり維持するよう努力しますが、通常どおりとはいきません。平成25年度のリニューアルに期待していただき、しばらくの不便をお忍びください。

今後とも附属図書館の活動をご理解いただき、ご支援、ご協力をお願いします。

附属図書館長 田 籠 博



Contents

Topics	4
図書館の動向	
・ 図書館コンシェルジュ	8
・ 学修支援	10
・ 島根大学の学術情報基盤整備	11
・ 全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト	12
・ 研究開発室の活動状況	13
・ 社会連携	14
統 計	15
・ 利用者	16
・ 貸 出	17
・ 図 書	18
・ 雑 誌	20
・ 電子ジャーナル	21
・ 図書館資料費 / Web サービス	22
・ 相互協力	24
・ 講習会	25
図書館日誌 / 年間刊行物 / 新聞・テレビ等の報道	26
組織 / 人事異動	27

TOPICS

■ 学生用図書をじっくり選ぶ

本館3階事務室内に、学生用図書選書コーナーを設けました。学生が授業や自習のため使用する学生用図書を、本館では年間約4,000冊購入しています。毎年刊行される数万点の図書の中から、大学図書館にふさわしい図書を選定する選書業務は、重要な業務のひとつです。

このコーナーには、あらかじめ書店で厳選された300冊あまりの新刊書を並べ、実際に手に取って内容を確認しながら選定することができます。図書は毎月更新されます。カタログだけでは選びづかった学生用図書も、幅広い分野を偏りなく選書できるようになりました。このコーナーは教員も利用できます。授業に関連する図書を推薦してもらったり、研究費での購入の参考にしてもらえよう、1年を通してコンスタントに提供できる場となっています。2011年度は、このコーナーから1,540冊を選定しました。【2011年5月】



■ 学生協働交流シンポジウムに参加

山口大学で開催された「大学図書館学生協働交流シンポジウム」に、図書館コンシェルジュ10名、教職員4名が参加しました。(p.8「図書館コンシェルジュ」参照)

図書館コンシェルジュは二期目の活動に入りましたが、同じような活動をしている他大学の状況も気になっているところでした。山口大学や島根県立大学などの学生と交流を図り、情報交換することで、今後の活動の方向が見えてきたようです。また、山口大学や市内の図書館の見学を行い、利用者を

意識した各館の優れたアイデアに、大いに刺激されました。

1泊2日の短い旅でしたが、日頃コミュニケーション不足でじっくり話す機会の少ないコンシェルジュ同士の親睦をはかるうえでも、有意義な体験でした。まだ参加大学は少ないですが、この企画が今後も継続され、中国四国地区の大学全体に広がっていくことが期待されます。「来年は島大で！」の約束は、残念ながら工事のため1年延期となってしまいました。【2011年9月】



■館内展示「明治近代法の成立と松江地裁明治文庫」

松江地方裁判所から寄贈された「松江地裁明治文庫」の整理が終わり、書庫へ収蔵されるのに伴い、本館1階展示コーナーでこの文庫を紹介する展示を開催しました。

明治のはじめ、国内では近代化をめざして様々な改革が行われました。中でも近代法典の整備は欠くべからざるもので、フランスやドイツなどの法典を参考に、憲法、民法、刑法な



どが整備されていきました。これと並行して、地方に裁判所が設置されます。松江地方裁判所は、明治9年に和多見町に開庁しました。

急激な西洋化による混乱の中、高い目標を掲げて困難に取り組んだ、パワーあふれる明治の人々の姿が見えてくるようです。【2011年10月】



■AVルームリニューアル

本館2階AVルームの視聴設備をリニューアルしました。これまでの機器類は故障が多く、利用に支障が出ていましたが、テレビはデジタル放送対応に、DVD、ビデオ、CDのプレーヤー類はすべて新しいものに交換しました。個人ブースは14席から8席に減らしましたが、そのかわりに2～3人のグループでも同時に視聴できるブース2席を新設しました。座り心地のよいソファを置き、ゆったりと利用できます。

各ブースは明るい色のパーテーションで仕切られ、以前と同じ高さなのに、明るく開放的な空間になりました。リニューアル後は学習や映画のDVDなどの利用がぐんと増え、AV資料のリクエストも寄せられるようになりました。

16席ある2階学習室には、AV機器や多機能プロジェクタ、スクリーンを備え付けました。AV資料を利用した授業や少人数でのプレゼン、学習会などに利用することができます。

【2011年10月】



■「島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会」第20回総会

1990(平成2)年に医学図書館(旧島根医科大学附属図書館)の呼びかけで発足した「医図懇」の第20回目となる総会が、済生会江津総合病院において開催され、12機関から16名の参加がありました。当時15機関だった加盟館は現在22機関に増え、年に1回開催される総会によって、各館(室)同士のネットワークを強めています。

今回の総会では、済生会江津総合病院の堀江病院長による講演をはじめ、県立中央病院図書室と医学図書館による発表2題、加盟館の近況報告や情報交換、図書室見学など、お互いたくさんの刺激を受ける充実した内容となりました。また、活動の一環として、加盟館の雑誌所蔵状況を取りまとめた医図懇ホームページ上で情報を共有し、文献複写サービス向上に努めました。

【2011年10月】



TOPICS

資料探訪セミナー「松江地裁明治文庫」

本館1階展示コーナーで10月から行っている「松江地裁明治文庫」に関する展示に合わせ、さらに資料の価値を知り、理解を深めるためのセミナー「明治近代法の成立と松江地裁明治文庫」を開催しました。

寄贈していただいた縁で、松江地方裁判所の松岡佑美判事補から裁判員制度や法曹キャリアについてお話ししていただ



くことができました。年齢も近く、自身の経験も踏まえた内容で、参加した法曹をめざす学生にとって進路の参考になったようです。法制史が専門の居石正和法文学部教授からは「明治初期の日本と近代法典整備」と題した講義があり、日本における裁判制度の整備や、明治初期、松江にも法整備の波が押し寄せてくる状況をお話しいただきました。

講義の後は書庫を案内し、整理の終わった文庫資料を見学しました。セミナーの様子は、後日マールTVで放映されました。
【2011年12月】



各学部で教員懇談会

図書館の資料整備やサービスについて教員との意見交換を行うため、各学部で懇談会を開催しました。図書館では日頃から、教育・研究のための学術情報や学生用図書の本整備、学術情報リテラシー育成支援のための講習会開催などに力を入れており、地域貢献の一環である史料整理や展示会なども教員と連携して行っています。必要とする資料や利用のしかた

は学部で異なりますが、今後より効果的なサービスを展開していくにあたり、教員それぞれの立場から忌憚のない意見を聞くことができました。また、図書館が提供しているサービスを知らない方も多く、理解してもらううえでも有意義な情報交換の機会となりました。

【2011年12月】



医学図書館にアメニティコーナー

医学図書館では、1階に置いていた新聞バックナンバーを整理して生まれたスペースを活用し、アメニティコーナーを設けました。新聞バックナンバー（3カ月）は、新聞閲覧台下に収納しました。階段下を中心に、長椅子セット1台、丸テーブル3台を置き、11席を確保しています。館外のため冷暖房はありませんが、休憩やちょっとした打合せ、また新聞の閲覧等に利用することができます。

コーナーの傍らにはイベント情報や催しもののパンフレット、医学関連小冊子などを置き、自由にお持ち帰りいただいています。
【2012年1月】



■書架の仕切板

図書館でよく見る図書の内容を表示した仕切板ですが、本館にはないため、図書館コンシエージュから、何の本があるかわかりにくいという意見が出ました。さっそく「仕切板ワーキンググループ」が結成され、開架閲覧室の書架に仕切版を設置してもらうことができました。本が探しやすくなり、板の色で分野を区別することができます。

職員もアドバイスしながら、どんな素材を使うか、誰がどの分野を担当するか、どのレベルまで表示するかなど、何度も話し合いが繰り返され、これまで存在さえ知らなかった「十進分類表」と首っ引きで書架の間を見て回りました。板の色も圧迫感のない淡いものを選び、書架全体が明るい雰囲気になりました。

スタートが遅かったため年度末に向けて春休み返上の作業



になりましたが、リーダーの頑張りもあり、3月中にすべての分野の作成が完了しました。

【2012年3月】

■雨の日用ビニールバッグ

最近図書館でも、PR用の様々なオリジナルグッズが作られるようになりました。付箋、しおり、クリアファイルなどが定番ですが、借りた本を入れて持ち帰られるバッグもあれば便利です。特に雨の日は本が濡れる心配があるため、利用者みなさんに使ってもらえるオリジナルビニールバッグを作成することになりました。色はもちろんライム色。片面にはマスコットキャラクターのみいなちゃんが「そうだ、図書館へ行こう!」と呼びかけています。もう片面は、箱からあふれ出る知識や地域との連携をイメージしたデザインになっています。

【2012年3月】



■改修工事に向けての準備すすむ

2012年度に本館の耐震機能改修工事が実施されることが決定しました。かねてから、空調をはじめとする館内の設備や建物の老朽化、使い勝手の悪さなど改善の要望が寄せられていましたが、利用しやすく、居心地の良い図書館に生まれ変わります。

工事は新館側の建物から始まるため、6月から資料の移転を行います。移転準備のため、例年なら蔵書点検を行う3月の休館日を利用して一部資料の箱詰め、移動を行いました。

図書館は2013年4月にリニューアルオープンする予定です。工事期間中はご不便をおかけしますが、新しい図書館を楽しみにお待ちください。

【2012年3月】



図書館の動向

図書館コンシェルジュ

図書館コンシェルジュは、図書館におけるピアサポートと学生の視点によるサービスの改善を企図して、一昨年から活動を始めました。2年目となった2011（平成23）年度は、14名のコンシェルジュによって次のような様々な取り組みを行いました。なお、本事業は教育開発センターとの連携事業として実施しているものです。

1. 図書館利用サポート

(1) 実施概要

コンシェルジュは、ピアサポーターとして利用者から図書館利用に関する様々な質問を受け付け、案内を行います。質問内容は、図書館資料の探し方や文献検索方法、PCやプリンターの使い方など、図書館利用全般にわたります。昨年度は1階情報メディアルーム及び2階閲覧室の2ヶ所にサービスポイントを置いてサポートを行いました。質問件数が多くなかったことから、今年度は1階のサービスカウンターのみでサポートを行いました。

(2) 実施状況と評価

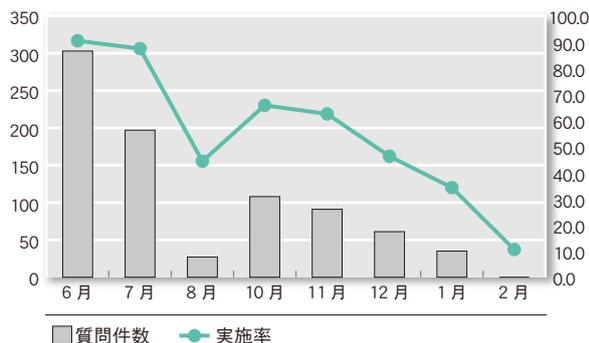
1日6コマとして、6月から2月までの活動可能なコマ数804コマに対して、実際にサポートに入ったコマ数は483コマ（実施率60.1%〈昨年度23%〉）でした。活動期間中に受けた質問件数は822件で、1日当たりの質問件数は6件（昨年度2件）、コマ当たりの質問件数は1.7件（昨年度1.1件）でした。月別の実施率、質問件数の推移は下図のとおりです。

実施率が月を追うごとに下がるのは、サービス改善のための企画（業務サポート）に時間を取られ、利用サポートに入る回数が減ったためと考えられます。また、8月と2月は試験期間のため、実施率が低くなっています。

実施率と質問件数は相関関係にあります。6月の質問件数が多いのは、次項で述べる初年次教育プログラムと連携したサポートを行った結果です。利用サポートの潜在需要はあると考えられるので、実施率を上げることが利用（質問）回数を増やすことになり、利用者へのサービス向上につながると考えられます。

(3) 評価と課題

ピアサポートに期待される効果は、質問し易い雰囲気をつくることで、問題解決のきっかけを増やすことができるという点にあります。今回の試行においては質問が少なかったことから、今後の実施に向けては、サポートデスクの位置や広報の在り方などを再検討する必要があります。



一方で、サポートする側であるコンシェルジュの学生にとっては、コミュニケーション能力や企画力、情報リテラシーを身につけるきっかけとなり、キャリア教育上の効果が大きかったと言えます。

2. 初年次教育プログラムとの連携

(1) パスファインダーを使った文献調査のサポート

初年次教育プログラムの授業であるスタートアップセミナーと連携したサポートを行いました。スタートアップセミナーは、初年次学生の学習スキル・社会的スキルを身につけさせることを目的とした共通教養科目の授業です。授業は、グループ毎に決めたテーマに沿って文献調査とフィールド調査を行い、調査内容をまとめてポスター発表を行うという流れで行われました。

受講学生は文献調査を行うにあたって、自分のグループのテーマのパスファインダーを持って図書館に文献調査に訪れます。パスファインダーは、あらかじめ決められた11のテーマ毎に、コンシェルジュと図書館職員が共同で作成しました。スタートアップセミナーの受講学生は3クラス360名（72グループ）という大所帯で、特定のグループに図書を占有されることを防ぐため、パスファインダーに掲載した図書はカウンター内に取り置き、コンシェルジュが手渡してその場で閲覧、複写をしてもらうという変則的な方法をとりました。

(2) 評価

一度に大勢の学生がカウンターに押し寄せたため、カウンター前が混雑する場面もありましたが、概ね順調にサポートができました。授業終了後のアンケート結果によると、コンシェルジュについては評価が高かった（「とても役立った」50%）ものの、パスファインダーについては低い評価（「とても役立った」23%）でした。今回は変則的なパスファインダーの使い方をしたため、本来の機能が理解されなかったものと思われます。学習成果として、「わからないことを図書館等で調べること」が、チームによる協調学習に関することと並んで高く評価されています。学習活動における図書館の活用という面で見ると、初年次の段階において正課授業の中で図書館での文献調査を行い、その過程でピアサポーターや図書館員からのサポートを得られたという経験は、その後の大学生活の中での学習面において、確実にプラスとなって表れてくると評価できます。

3. サービス改善のための様々な企画

ピアサポートとしての図書館利用サポートと並ぶコンシェルジュのもう一つの活動の柱が、サービス改善のための企画です。学生の視点で図書館サービスを改善する企画を立て、

一人またはグループで実施するものです。書架の分類見出版の作成、テーマを決めての図書の展示、広報誌の編集・発行、館内マップの作成、数学の質問箱、数学のパスファインダー作成など、多彩な活動が行われました。

これまで職員が気付かなかった点、人手不足で実施できない部分でコンシェルジュが気づき、自ら企画して実施するこの取組みは、利用者視点に立ったきめ細かなサービスを実現する上で大きな力となっています。



数学のパスファインダー

4. 島根・山口の4大学で学生協働交流シンポジウム開催

大学図書館で活動する学生協働スタッフが各大学での取組みを共有し、それぞれの大学においてより発展的な活動に結び付けるために、交流シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、大学図書館での学生協働の取組みの国内での嚆矢となった山口大学と本学が、山口・島根両県の同様の取組みを行っている大学に呼び掛けて開催したものです。山口大学、梅光学院大学、島根県立大学（浜田・松江）、島根大学の4大学を中心に、学生・教職員72名が出席して、各大学の活動報告やパネルディスカッションを行いました。

第1日目 シンポジウム

日時：2011（平成23）年9月20日（火）

会場：山口大学共通教育棟2番教室

プログラム：

開会挨拶 瀨瀬厚山口大学図書館長

基調講演 平尾元彦山口大学学生支援センター教授

学生による活動報告

島根大学 荒川宏子ほか

山口大学 貞森恵利加

島根県立大学松江キャンパス 内田友恵ほか

島根県立大学浜田キャンパス 近重美香ほか

梅光学院大学 田中聖

パネルディスカッション 司会：岡田隆（山口大学）

閉会挨拶 鹿住大助島根大学教育開発センター講師

第2日目 施設見学

日時：2011（平成23）年9月21日（水）

見学先：山口県立図書館／山口市立図書館／山口大学図書館

このシンポジウムと施設見学に参加して得られた経験は、その後のコンシェルジュ活動の中に取り入れられていきました。他大学の学生スタッフと交流し、取組み状況を知ること、確実に活動の活性化につながっています。シンポジウムは継続して開催することとなり、2012（平成24）年度は*島根大学を会場に開催することになりました。

（*本学図書館は改修工事のため、島根県立大学浜田キャンパスで開催）

5. 評価とこれから

次の2つの側面からの評価を行いました。一つは、図書館コンシェルジュの活動が図書館の利用者及び図書館サービスに与えた影響面での評価であり、二つ目はコンシェルジュの学生がどのように成長したかという面での評価です。

(1) 図書館サービス面での評価

ピアサポート活動としての図書館利用サポートが、サポートを受ける学生にどのように受け止められ、評価されているかという点については、前述のスタートアップセミナーの授業後に実施されたアンケート調査があるのみです。今後は、サポートを受ける学生の側に立った調査データの蓄積を行い、評価を行う必要があります。

今年度、初年次学生を対象とした補習教育をサポートする学習サポートデスクが試行的に図書館内に設置されました。図書を始めとして、PC・ネットワーク環境など学習のためのリソースが充実して多くの学生が集まる図書館において、様々な機能を持ったピアサポーター（図書館コンシェルジュ、学習サポーターなど）が配置されることは、教室外学習の場としての図書館の機能を高めることにつながり、望ましいことです。今後は、ピアサポーターとしてのコンシェルジュの機能分担を明確にしつつ進める必要があります。

(2) コンシェルジュの学生の学びと成長

コンシェルジュの学生に対するグループインタビュー（教育開発センターの鹿住講師による）の結果は以下のとおりです。

活動を通じて身についたこと・役立ったこと	回答数
① コミュニケーション能力	3
② 主体性・積極性	4
③ 文献・資料調査のスキル	5
④ 図書館業務への理解	4
⑤ 情報処理技術（Office系ソフトの使い方）	1
⑥ 就活での自己PR	1

学生へのサポートを通じての③文献・資料調査スキル及び④図書館業務への理解の向上、さらに、サービス改善のための企画・実施を通しての②主体性・積極性が身についたとの回答数が多いようです。①コミュニケーション能力は、学生へのサポートを通して、また、職員やコンシェルジュ同士での会話や会議を通して培われたものと推察されます。

図書館の動向

学修支援

附属図書館では、学修支援のための様々な資料や情報を収集、提供し、それらの情報資源をうまく使いこなすための講習会を開催しています。学生の学修意欲を高めるため、カリキュラムやシラバスを意識した資料収集に努める一方、積極的に教員に働きかけ、授業と連携した学術情報リテラシー教育を行っています。

1. 授業関連図書の収集

シラバスに掲載された参考文献をはじめ、研究室等からの授業の参考となる図書の推薦、各年度ごとの重点分野の整備など、授業と関連した学生用図書の整備を毎年計画的に行っています。

■購入実績

本館

年度	購入冊数	金額 (千円)
2007	1,497	5,392
2008	1,374	5,489
2009	1,254	5,538
2010	1,123	4,940
2011	1,041	5,008

医学図書館

年度	購入冊数	金額 (千円)
2007	676	4,340
2008	744	4,480
2009	666	4,820
2010	550	3,910
2011	572	4,226

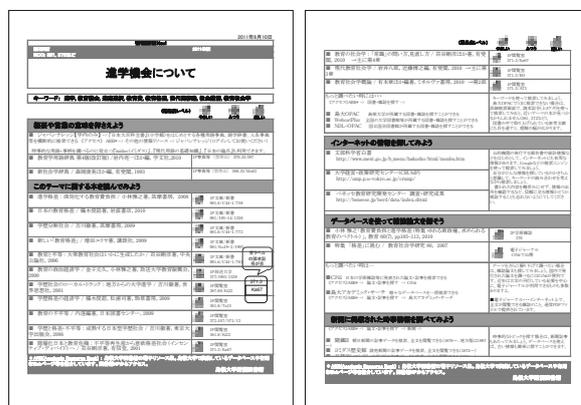
2010 (平成22) 年度から本館に設置した「初年次教育・授業関連図書コーナー」には、まだ一部の科目ですが、授業をうけるにあたっての必読書、推薦図書を置いています。2年目になり、コーナーの認知度が高まったことや教員の指導が徹底したことなどから、一部の授業で大幅に利用が増加し、全体では前年度の2倍の貸出がありました。

■初年次教育・授業関連図書コーナーの利用状況

	2010				2011			
	授業科目数	タイトル数	貸出タイトル数	貸出回数	授業科目数	タイトル数	貸出タイトル数	貸出回数
法文学部	3	24	22	47	4	25	22	68
教育学部	3	21	9	16	3	21	18	55
総合理工学部	8	56	23	53	8	56	32	141
生物資源科学部	4	27	17	54	4	27	22	78
合計	18	128	71	170	19	129	94	342

2. スタートアップセミナーとパスファインダー

本館では、1年生を対象とした授業「スタートアップセミナー」と連携し、文献や学術情報の探索を支援しました。この取り組みでは、図書館コンシェルジュと職員が協働して事前に各テーマのパスファインダーを作成し、これをもとにした館内での利用サポートを、コンシェルジュが担当しました。



パスファインダー (両面)

3. 利用講習会

学術情報リテラシー向上をサポートするために、さまざまな利用講習会を行いました。本館でもっとも多く利用されているのが、授業やゼミの時間に内容を指定して行う、オンデマンド講習会です。教員と事前に打ち合わせを行うことにより、授業の内容に適したツールを重点的に取り上げることができます。医学図書館でも、授業と連携して行う文献検索説明会や、申込みを受けて行う講習会を継続して行っています。

このような講習会は、多くの学生に一度に伝えることができるため大きな効果があります。しかし、全体の学生数から見ると、まだ一部の学生の受講にとどまっています。今後は、講習内容の精査や担当者の育成、図書館側で企画する講習会の充実も必要となっています。

■ 島根大学の学術情報基盤整備

—電子ジャーナルの充実に向けて—

本学では2001（平成13）年度から開始した「学術情報基盤整備計画」により、全学的観点から複数の専門分野をカバーする外国雑誌を中心とした電子ジャーナル及び文献データベース等の計画的な整備を行っています。全学共通経費を主な財源としたこの整備計画は3年ごとに見直しを行い、現在「第四期学術情報基盤整備計画（平成22-24年）」として、2012（平成24）年は電子ジャーナル（主要出版社約10,000誌）に加えて、引用文献データベース、アクセスツール及び文献管理ソフト等を整備しています。

なお、専門分野固有の化学系、医学系、工学系など一部のパッケージや個別タイトル約700誌については、部局経費により契約し、利用に供しています。

1. 第四期学術情報基盤整備計画の基本方針

- 学術情報基盤整備にかかわる電子ジャーナルは、全学的観点から、本学の複数の専門分野をカバーするパッケージとして提供されるジャーナル群を整備する。また、特に共通性が高く重要なジャーナルの数タイトルをコア・ジャーナルとして位置付け整備する。
- 各専門分野のパッケージ及び個別タイトルは、必要とする部局経費で整備する。
- 電子ジャーナル等の学術資源を効率的に活用できるデータベース、アクセス・ツール及び文献管理ソフト等を整備する。
- 必要とする情報へのアクセスが容易で分かりやすく、利用者がこれらのサービスを学外からも利用できる環境整備を推進する。
- 学術情報基盤系のタイトルは戦略的に選定し、共通経費、部局経費、間接経費等を工夫して整備を図る。
- 電子ジャーナル契約は、入念な市場調査とともにコンソーシアム等を活用し経費圧縮に努める。

2. 学術情報基盤整備をすすめる上での課題

電子ジャーナルは、学術出版社の寡占化、独占化による価格高騰により、特に地方の国立大学ではその購入が困難となっています。電子ジャーナルの購入維持については、全国の大学、研究機関でも対応に苦慮しています。

この問題に対する活動として、平成23年4月1日に大学図書館コンソーシアム連合（略称、JUSTICE）を全国の国公立大学図書館で結成し、出版社と団体交渉を進めています。また、SPARC Japan(※1) や機関リポジトリ(※2) などによる学術論文のオープン・アクセス活動も始まっています。島根大学においても大学全体で経費を工夫し、タイトルを維持・継続する必要があります。

※1 SPARC Japanとは、日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外に流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者自身の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進することを目的として国立情報学研究所が実施している国際学術情報流通基盤整備事業

※2 機関リポジトリとは、研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム

■ 提供している電子ジャーナル・データベース等

〈2012(平成24)年〉

電子ジャーナル/データベース名称	概要
Elsevier SciVerge ScienceDirect	エルゼビア社の雑誌 2,154タイトル
Wiley Online Library	ワイリー&ブラックウェルの雑誌 1,367タイトル
Springer LINK	シュプリンガー社の雑誌 約1,711タイトル
Cambridge Online Package	ケンブリッジ大学出版会の雑誌 271タイトル
Oxford Online Package	オクスフォード大学出版会の雑誌 165タイトル
JSTOR : Art Science I, Health & General Science	学術雑誌バックナンバーのアーカイブ 244タイトル
ProQuest : Research Library, Health and Medical Complete	学術雑誌リソースおよびデータベース 4,570タイトル
Nature & Research誌	Natureとその姉妹誌 合計5タイトル
ProNAS	米国科学アカデミー紀要
Science	米国科学振興会発行の学術雑誌
Cell	セル出版発行の学術雑誌
New England Journal of Medicine	マサチューセッツ内科外科学会発行の学術雑誌
Web of Knowledge (Web of Science + CCC + JCR)	引用索引データベースと雑誌のインパクトファクター
SFX (EJ管理ツール)	電子ジャーナルの管理およびリンクリゾルバ
360Search (横断検索DB)	学術情報データベースの横断検索ツール
RefWorks (文献情報管理ツール)	文献情報管理および論文作成支援ツール

図書館の動向

■全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト

全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトは、本学附属図書館が全国の大学に呼び掛けて推進する遺跡の発掘調査報告書を電子化してインターネット上に公開するプロジェクトです。学術機関リポジトリの普及を背景にして、少部数発行で入手が困難な灰色文献である発掘調査報告書に着目し、考古学分野の主題分野別リポジトリとして開始したものです。2008（平成20）年度の開始当初から、国立情報学研究所の最先端学術情報基盤整備（CSI）事業の委託を受けて推進しています。

1. これまでの達成状況

(1) 全国の状況

プロジェクトを開始して4年目となる2011（平成23）年度までに、20府県（20大学）に参加府県を拡大し、事業を推進しています。この4年間に参加20府県で電子化して公開した報告書は約11,000冊に上り、これは、これまでに発行された報告書の総冊数の1/6にあたります。電子化のための経費は、CSI委託事業費及び科学研究費補助金（研究成果データベース）です。

(2) 島根県の状況

本学はプロジェクト事務局として、全国の参加府県（大学）の取りまとめを行うとともに、島根県内の自治体と連携しながら報告書を収集し、電子化を進めています。

県内でこれまでに発行された報告書約1,100冊を電子化し、若干数を残してほぼ完了しています。電子化した報告書の公開件数及びアクセス状況は下の表のとおりです。

報告書1件当たりの平均アクセス回数を見ると、大田市や雲南市、島根大学発行分が突出し、益田市、吉賀町、浜田市と続きます。県教育庁発行分は公開件数では最も多いのに、1件当たりの平均アクセス回数は最も低くなっています。一般に関心の高い遺跡（石見銀山遺跡、加茂岩倉遺跡など）の報告書が含まれていることがアクセス回数を引き上げている理由の一つと考えられますが、小さな市町村では県発行のものに比べて冊子報告書の配布範囲が限られているため、閲覧機会が少ないことが電子版報告書へのアクセス回数が多くなっている理由の一つとも考えられます。遺跡資料リポジトリが、入手困難な報告書のアクセスを保証するという本来の機能を果たしていることを見てとることができます。

2. 2011（平成23）年度の取組み

国立情報学研究所のCSI委託事業は、2012（平成24）年度をもって終了することから、2011（平成23）年度は、委託事業終了後も本プロジェクトが自律的に参加都道府県を拡大していくための地盤固めのための取組みを進めました。

(1) 広域遺跡クラウド・モデルの開発

現在のプロジェクトは、大学図書館が中心となって各都道府県の自治体と連携しながら推進するものであり、大学図書館にプロジェクトへの参加意思がなければ、新たに参加都道府県を拡大することができない事業モデルです。このため、都道府県や市町村などの自治体が直接プロジェクトに参加できるようにするための「広域遺跡クラウド・モデル」を構想し、そのためのシステム開発を行いました。

(2) 考古学界・埋蔵文化財行政へのアプローチ

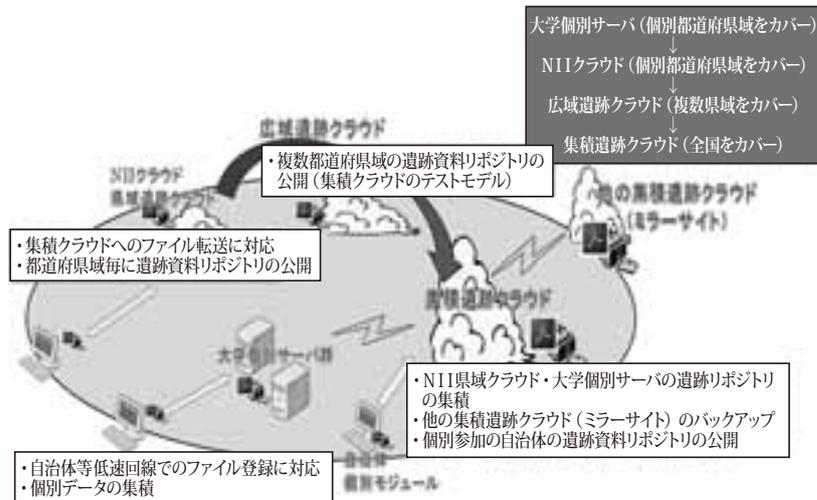
遺跡資料リポジトリのコンテンツである報告書の最大の利用者であり、また報告書の作成者でもある考古学界や埋蔵文化財行政関係者に浸透させていくことが、本プロジェクト開始以来の課題でした。プロジェクトの普及・拡大のために、毎年、シンポジウムを開催してきましたが、2011（平成23）年度は、東京と福岡の2ヶ所でワークショップを開催しました。この時のワークショップがきっかけとなり、日本考古学協会の平成24年度総会において遺跡資料リポジトリのセッション開催につながりました。

■島根県内市町村別・月別アクセス状況

年月	島根県	松江市	浜田市	出雲市	益田市	大田市	安来市	雲南市	東出雲町	奥出雲町	吉賀町	隠岐の島町	島根大学	総計
2010/ 7	655	803	267	856	620	211	662	104	60	109	69	103	266	4,785
2010/ 8	580	599	468	903	570	167	467	211	68	124	60	106	131	4,454
2010/ 9	546	1,888	379	791	515	122	615	206	66	205	63	96	203	5,695
2010/10	531	1,865	298	771	456	99	413	175	76	224	36	90	102	5,136
2010/11	674	1,591	354	849	419	134	567	224	72	236	50	94	165	5,429
2010/12	612	1,857	343	979	626	142	453	148	74	223	41	103	236	5,837
2011/ 1	894	2,006	448	1,361	838	168	596	368	110	193	55	118	301	7,456
2011/ 2	853	1,540	402	1,040	595	346	460	183	82	257	50	124	150	6,082
2011/ 3	611	1,375	343	881	551	134	371	300	46	180	28	75	81	4,976
2011/ 4	721	2,070	461	1,048	710	163	343	421	70	137	49	137	249	6,579
2011/ 5	448	1,179	220	598	300	196	132	88	62	119	30	43	333	3,748
2011/ 6	334	446	61	151	97	8	116	26	9	22	9	11	87	1,377
総計	16,283	29,884	6,103	17,441	14,238	3,867	5,439	4,809	1,049	4,155	708	1,711	6,266	111,953
コンテンツ公開件数	263	186	36	104	75	12	47	16	7	25	4	12	19	806
コンテンツ登録件数	306	227	37	137	78	50	47	17	7	29	4	12	19	970
公開コンテンツ1件あたりの平均アクセス回数	62	161	170	168	190	322	116	301	150	166	177	143	330	139

3. プロジェクトのこれから

2012（平成24）年度は、奈良文化財研究所と連携研究の形で「広域遺跡クラウド・モデル」の試験運用を開始します。「広域遺跡クラウド」の発展型としての「集積遺跡クラウド」の開発を経て、将来は国内に展開する遺跡資料リポジトリのデータを集約する「集積遺跡クラウド」とそのミラーサイトが互いにデータをバックアップしながら、災害発生時にもデータの消失を防ぎ、安定的な運用を可能とする体制を作り上げる予定です。



遺跡資料リポジトリの将来イメージ

■ 研究開発室の活動状況

2011（平成23）年度は、政策的配分経費「附属図書館研究開発室の地域貢献及び教育・研究支援プロジェクトー学内外の研究」との連携による地域貢献、教育・研究支援事業」の経費配分を受けて、次の活動を行いました。

1. 未整理資料の目録作成／資料調査

- 林家文書（本館）、熊谷家文書（本館）の目録作成
未整理分の目録作成が完了し、受入のための準備作業として、封筒・文書箱等への仕訳等の作業を実施しました。
今年度は、全体の半分の受入準備作業が完了しました。
- 松本家資料（医学図書館）の目録作成

2. 電子化及びデジタル・アーカイブの充実

- 手銭記念館（出雲市）の和古書31点の電子化
- 松本家資料（医学図書館）30点の電子化
- 島根県立図書館との連携により、昭和前期の新聞マイクロ資料（本館）97点を電子化
毎年継続して貴重資料の電子化を行っています。デジタル・アーカイブのコンテンツは年々充実し、利用環境が向上しています。研究資料としてだけでなく、官公庁の調査報告、地域の学習会、観光など多方面で有効に活用され、利用申込み件数が増えています。

3. 成果の公開

2009（平成21）年度に開催した企画展示「江戸を旅する・明治に学ぶ」で展示を行った島根地域の国絵図について、展示成果をまとめた図書出版のための資料調査及び編集作業を進めました。図書は2012（平成24）年度中に出版の予定です。

4. 資料保存対策

- マイクロフィルム劣化対策を継続して実施
本館で所蔵しているマイクロフィルム全資料を対象に劣化状況をサンプリング調査し、劣化の著しい130巻について複製を作成しました。
- 古医学書の補修及び保存容器の作成

5. 仮想化システムの導入

サーバの効率的な管理・運用を図るため、デジタル・アーカイブの画像サーバ等の複数のサーバを集約するための仮想化システムを導入しました。

6. その他

国文学研究資料館が主催する「日本古典籍講習会」に職員を参加させ、古典籍に関する専門知識及びスキルの育成を図りました。

室員名簿 2011(平成23)年度

所 属	氏 名
室 長（附属図書館長）	田 籠 博
(1) 和古書・漢籍・記録史料	
法文学部教授	田 中 則 雄
法文学部教授	要 木 純 一
法文学部教授	竹 永 三 男
法文学部准教授	小 林 准 士
島根大学名誉教授	松 尾 寿
(2) ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）	
法文学部教授	長 岡 真 吾
島根大学名誉教授	常 松 正 雄
島根大学名誉教授	高 瀬 彰 典
(3) 古医書・西東文庫	
医学図書館長	富 岡 治 明
医学部附属病院長	小 林 祥 泰
医学部教授	小 林 裕 太
医学部教授	岩 田 淳
(4) 教科書データベース	
教育学部教授	森 本 直 人
教育学部教授	権 藤 誠 剛
(5) 電子図書館推進	
法文学部教授	野 田 哲 夫
教育学部教授	森 本 直 人
総理工学部教授	平 川 正 人

図書館の動向

■社会連携

大学図書館ならではのデジタル・コンテンツや貴重資料を通して、資料による社会貢献を継続して行っています。相互貸借の物流システムは定着し、貸出依頼は年々増加しています。今年度は図書館主催による展示会は開催しませんでした。所蔵コレクションを紹介するセミナーの開催や、地域で開催された展示会への貴重資料の貸出などを行いました。

1. 物流による相互貸借

島根県立図書館の配送便による相互貸借システムを利用し、県内の公共図書館と図書の貸借を行っています。今年度から松江市立図書館との配送がスタートしたため借受冊数が増え、19件のうち16件を占めました。大学図書館では収集しないような図書も、このサービスを利用して手軽に入手できるようになりました。

貸出冊数は年々増加しています。本館・医学図書館ともに遠隔地の公共図書館からの申し込みが増えており、専門図書の豊富な大学図書館の果たす役割は大きいと思われます。

2. 地域の貴重資料の電子化 -利用促進へ向けて-

図書館所蔵の貴重資料のほか、地域の個人蔵の資料の電子化も継続して行っています。これらのコンテンツのうち、公開可能なものはデジタル・アーカイブシステムで公開しています。教員の協力を得ながら、地域の個人や所蔵機関と連携して貴重資料を掘り起こし、整理、保存、そして教育・研究への利用促進を進めています。

3. セミナーの開催・展示会への資料貸出

●資料探訪セミナー

「明治近代法の成立と松江地裁判治文庫」

図書館のコレクションを地域に紹介し、資料への理解を深めてもらうためのセミナーを開催しました。地元松江に関連が深く、法曹を志す学生も多い中で、地方と裁判所との繋がりを再認識できました。

日時：2011(平成23)年12月20日(火)

会場：島根大学附属図書館（本館） 2階学習室

●展示会への資料貸出

図書館が所蔵する貴重資料を、地域で開催される展示会などに貸出を行いました。

- ・ 出雲国十二郡図（本館）
松江歴史館秋の特別展
(2011年8月23日～11月30日) へ
- ・ 大森文庫等の古医学書
(医学図書館)
荒神谷博物館企画展
(2011年9月3日～
10月24日) へ
- ・ 旧制松高 校友会雑誌(本館)
島根県立美術館企画展
(2012年2月24日～
2013年4月9日) へ



荒神谷博物館での展示

■相互貸借冊数

	貸出冊数				借受冊数			
	2008	2009	2010	2011	2008	2009	2010	2011
島根県立大学（浜田）*	—	—	—	—	—	—	—	—
島根県立大学（松江）	13	6	7	8	1	1	3	4
松江高専	7	11	10	7	0	0	1	3
島根県立図書館	12	5	9	14	20	23	27	6
県立以外の公共図書館	12	22	96	120	5	6	3	19
合計	47	44	122	148	29	30	34	32

*島根県立大学（浜田）は、ILLにより対応している。

統計

2011(平成23)年度データ

2011 Data

		本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計	
開 館 日 数	平 日	233	244		
	土・日・祝 日	75	91		
	合 計	308	335		
利 用 対 象 者 数 (平成24年5月1日現在)	教 職 員	2,157		2,157	
	学 生	5,119	1,099	6,218	
	学 外 者	722	160	882	
	合 計			9,257	
入 館 者 数	学 生・教 職 員	348,869	223,570	572,439	
	学 外 者	3,849	425	4,274	
	合 計	352,718	223,995	576,713	
貸 出 冊 数	学 生	46,083	9,741	55,824	
	教 職 員	4,546	1,403	5,949	
	学 外 者	1,950	602	2,552	
	合 計	52,579	11,746	64,325	
蔵 書 冊 数 (平成24年3月31日現在)	和 漢 書	602,596	67,812	670,408	
	洋 書	152,003	55,559	207,562	
	合 計	754,599	123,371	877,970	
図 書 受 入 冊 数	和漢書	購 入	7,610	1,117	8,727
		寄贈・その他	2,270	963	3,233
		計	9,880	2,080	11,960
	洋 書	購 入	584	375	959
		寄贈・その他	148	34	182
		計	732	409	1,141
	合 計		10,612	2,489	13,101
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌	8,403	2,231	10,634	
	洋 雑 誌	2,969	1,716	4,685	
	合 計	11,372	3,947	15,319	
雑 誌 受 入 種 類 数	和雑誌	購 入	572	212	784
		寄贈・その他	1,416	416	1,832
		計	1,988	628	2,616
	洋雑誌	購 入	195	63	258
		寄贈・その他	52	32	84
		計	247	95	342
	合 計		2,235	723	2,958
資 料 費 (千円)	学 生 用 図 書	15,704	6,127	21,831	
	雑 誌	5,666	3,864	9,530	
	小 計	21,370	9,991	31,361	
	デ ー タ ベ ー ス	9,743		9,743	
	電 子 ジャ ー ナ ル	89,810		89,810	
	合 計	130,914			
文 献 複 写 件 数	受 付	1,294	2,182	3,476	
	国 内 依 頼	2,910	2,115	5,025	
	海 外 依 頼	8	0	8	
現 物 貸 借 件 数	貸 出	413	39	452	
	借 受	478	15	493	

統計

利用者

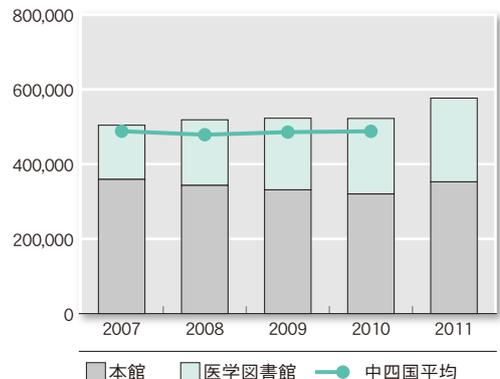
In-Library Users

■入館者数

		2007	2008	2009	2010	2011
本館	学生・教職員	350,163	333,097	320,458	308,935	348,869
	学外者	9,017	10,033	10,846	11,247	3,849
	小計	359,180	343,130	331,304	320,182	352,718
医学図書館	学生・教職員	144,703	175,151	191,149	201,531	223,570
	学外者	323	374	405	581	425
	小計	145,026	175,525	191,554	202,112	223,995
合計		504,206	518,655	522,858	522,294	576,713

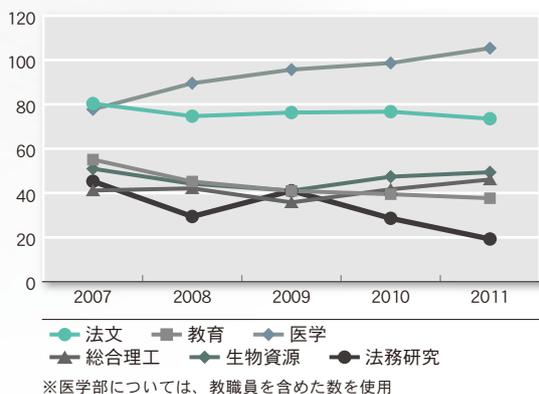
※医学図書館は、2007年度に耐震・改修工事を行ったため、8月～12月の開館時間外特別利用を中止した。

■入館者数の推移



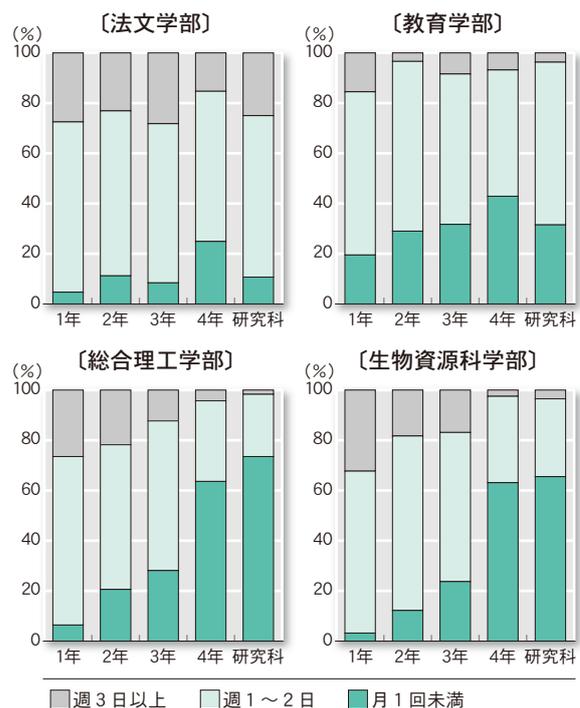
※中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」（日本図書館協会編）に掲載の中国四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校（学部数2～7学部）7校（広島・岡山・鳴門教育大学を除く）の平均値を用いた。（以下同様）

■学生1人あたりの年間平均入館回数

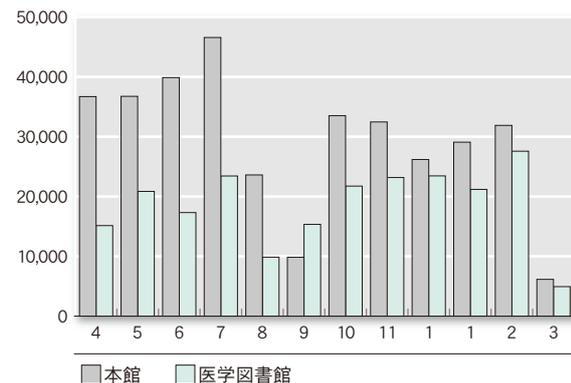


※医学部については、教職員を含めた数を使用

■月別入館者数（学部別）



■月別入館者数



総入館者数は、わずかながら増加の傾向を示しています。月別入館者数を昨年度と比較すると、本館では授業連携の効果により前期の利用が増えたのに対し、医学図書館は後期の増加が顕著です。

本館の7月、医学図書館の9月は前期試験のため利用の多い月です。今年度は松江キャンパスの試験が8月にずれ込んだため、8月の利用者が昨年度の2倍に増えました。

学生の利用頻度を学部別にみると、本館では資料の利用が多い法文学部が圧倒的に多くなっています。最近では初年次

から図書館利用や文献検索に力を入れる授業が増えてきており、総合理工学部や生物資源科学部でも微増となったのが利用増加につながっています。

本館では、各学部をさらに学年別に集計しました。どの学部でも1年生は比較的図書館によく来ているのですが、人文・社会系の学部では学年が進んでもあまり変化がないの比べ、自然系の学部では、実験や実習が増えるためか、4年生以上になると利用が急激に減っていきます。

医学図書館は学年別の統計はとれませんが、全体として年々増加傾向にあります。

貸出 Circulation

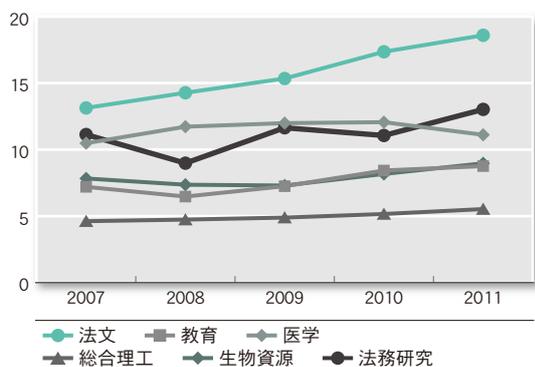
■貸出冊数

		2007	2008	2009	2010	2011
本館	学生	41,198	41,095	42,711	44,274	46,083
	教職員	3,257	3,814	4,209	4,018	4,546
	学外者	1,983	1,888	2,295	2,019	1,950
	小計	46,438	46,797	49,215	50,311	52,579
医学図書館	学生	9,662	11,429	11,717	12,205	9,741
	教職員	2,928	3,106	3,048	1,315	1,403
	学外者	539	536	501	612	602
	小計	13,129	15,071	15,266	14,132	11,746
合計	59,567	61,868	64,481	64,443	64,325	

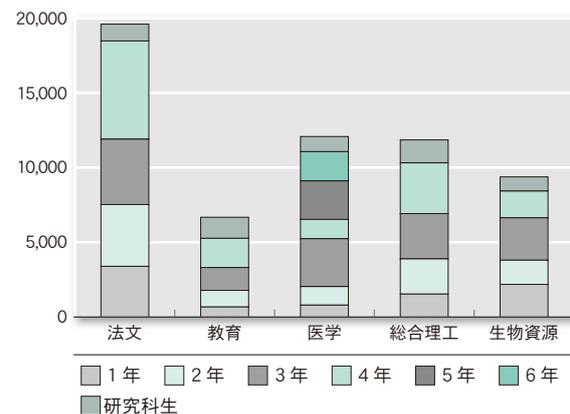
■貸出冊数の推移



■学生 1 人あたりの年間平均貸出冊数



■学部別／学年別貸出冊数



■本館貸出ベスト10

分類	書名等	回数
411.6	演習群・環・体入門 / 新妻弘著	20
323.9	判例行政法入門 / 芝池義一編	19
420.8	量子力学 / 原田勲, 杉山忠男著	18
411.6	群・環・体入門 / 新妻弘, 木村哲三著	18
673.97	松江ぐるめ: 松江エリア飲食店ガイドブック	17
323.9	行政法総論講義 / 芝池義一著	17
411.3	スパラシク実力がつく!と評判の演習線形代数キャンパスゼミ: 大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる! / 馬場敬之, 高杉豊著	17
420.8	量子力学 / 原田勲, 杉山忠男著	16
377.9	就職の赤本: 準備・受験方法・筆記・面接・内定法則 / 就職総合研究所編	16
830.79	新TOEICテスト文法特訓プログラム / 白野伊津夫著	16

*小説類を除く

■医学図書館貸出ベスト11

分類	書名等	回数
WL100	脳・神経 / 医療情報科学研究所編	35
WB100	呼吸器 / 医療情報科学研究所編	34
WB100	循環器 / 医療情報科学研究所編	31
WB100	糖尿病・代謝・内分泌 / 医療情報科学研究所編	29
WH100	血液 / 医療情報科学研究所編	26
QS17	ネッター解剖学アトラス / Frank H. Netter著; 相磯貞和訳	26
WB100	糖尿病・代謝・内分泌 / 医療情報科学研究所編	25
WM100	標準精神医学 / 野村総一郎, 樋口輝彦, 尾崎紀夫編	25
QW504	免疫・膠原病・感染症 / 医療情報科学研究所編	25
WO100	標準外科学 / 加藤治文, 畠山勝義, 北野正剛編集	24
QZ4	標準病理学 / 坂本穆彦, 北川昌伸, 仁木利郎編集	24

本館では、入館者数の増加に比例して、貸出冊数も増える傾向にあります。

学部別では法文学部が多く、学年が進むごとに増えていっています。学科ごとに資料室も備えていますが、図書館の資料もよく利用されているようです。総理工学部は、学生数も多く、資料室が充実している学科もあるため1人あたりの貸出冊数は最も低いですが、総貸出冊数では1万冊を超えています。特定の資料が何度も何度も貸し出されるのが特徴で、よく借りられる基本的な資料は複数冊を備え、傷みが激しくなると適宜買い替えをしながら提供しています。

医学部も貸出冊数は多いのですが、図書館を自習室として利用することが多いためか、入館者数の増加が貸出冊数と結びついていないようです。

本館で貸出が多いのは、自然科学系の入門書的な図書です。また、一般書の中では就職関係の図書の利用が多く、キャリアに対する学生の関心が高いことがわかります。このコーナーには、就職そのものだけでなく、自身の適性や大学生活に関する資料も整備しています。

医学図書館は専門書が充実しており、基本的な図書は貸出回数も多く、毎年よく借りられています。

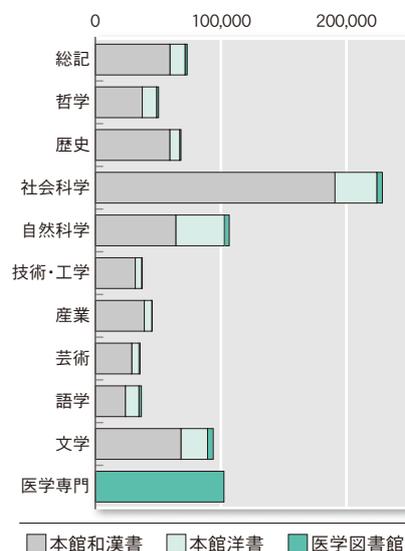
統計

■ 図 書

Books

■ 蔵書冊数（分類別）

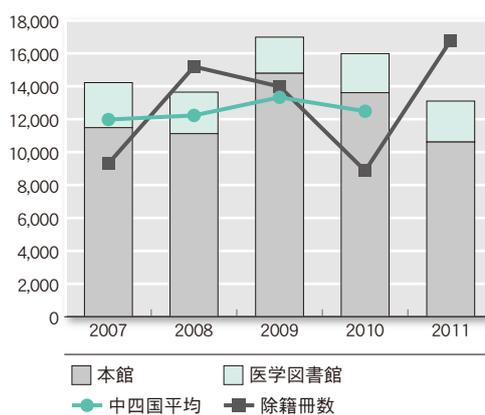
	本館			医学図書館	合計
	和漢書	洋書	小計		
000 総記	59,384	12,005	71,389	1,677	73,066
100 哲学	37,355	11,343	48,698	1,634	50,332
200 歴史	59,255	7,872	67,127	1,059	68,186
300 社会科学	190,824	33,334	224,158	4,466	228,624
400 自然科学	64,058	38,661	102,719	3,905	106,624
500 技術・工学	31,765	5,064	36,829	552	37,381
600 産業	38,963	5,971	44,934	238	45,172
700 芸術	28,965	5,754	34,719	903	35,622
800 語学	23,878	10,797	34,675	1,986	36,661
900 文学	68,149	21,202	89,351	4,540	93,891
医学専門	0	0	0	102,411	102,411
合計	602,596	152,003	754,599	123,371	877,970



■ 受入冊数

		2007	2008	2009	2010	2011	
本館	和漢書	購入	6,940	7,083	8,846	7,681	7,610
		寄贈・その他	3,495	3,210	4,743	3,817	2,270
		計	10,435	10,293	13,589	11,498	9,880
	洋書	購入	518	325	941	567	584
		寄贈・その他	533	505	259	1,545	148
		計	1,051	830	1,200	2,112	732
小計	11,486	11,123	14,789	13,610	10,612		
医学図書館	和漢書	購入	1,490	1,647	1,370	1,731	1,117
		寄贈・その他	509	293	505	242	963
		計	1,999	1,940	1,875	1,973	2,080
	洋書	購入	669	560	286	370	375
		寄贈・その他	68	22	35	31	34
		計	737	582	321	401	409
小計	2,736	2,522	2,196	2,374	2,489		
合計	14,222	13,645	16,985	15,984	13,101		

■ 図書受入冊数の推移



分類別蔵書冊数では、研究室を含むキャンパス全体の所蔵傾向を見ることができます。グラフで明らかのように、松江キャンパスでは社会科学系の資料が非常に多く、出雲キャンパスでは医学専門書がほとんどを占めています。

受入冊数を見てみると、本館では入手しにくい寄贈資料などの収集にも務めてきましたが、Webで見ることができたり、保管スペースの問題もあることから、選定しながら受け入れるようになってきました。寄贈資料の受入は年々減少しています。

2006年度より、共通経費を確保し新刊資料の収集に努めるとともに、利用のなくなった重複資料の計画的な除籍も行っています。2011年度の除籍冊数が多くなった原因は、遡及入力が進む中で前身校から移管した資料の重複図書の処理を行ったこと、2012年度に実施される耐震機能改修工事を控え、閲覧室・書庫スペースの狭隘化に対応するために全分野の重複図書の見直しを行った事によります。

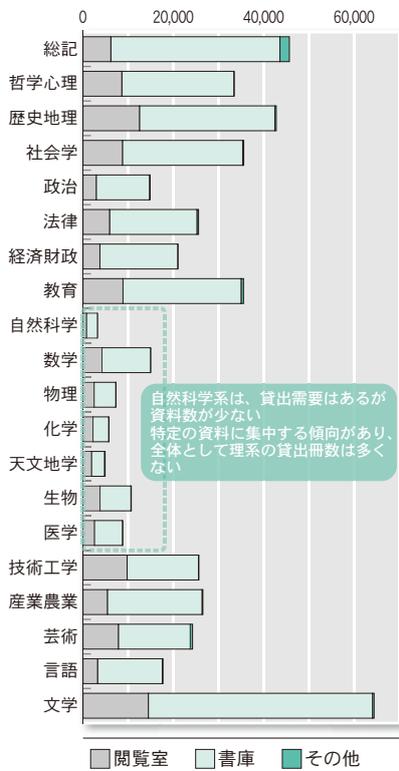
19ページは、図書館で所蔵する図書資料について、所蔵・貸出・受入のそれぞれで分析を行い、所在と分野による集計を行ったものです。

本館の分野別所蔵冊数では、分野によるばらつきとともに、書庫にも大量の資料があることを示しています。分野別貸出冊数を見ると、利用のほぼ半数が近年5年分の購入資料となっており、書庫内資料の利用はわずかです。これは、貸出回数に応じて閲覧室と書庫の資料の入れ替えを行っている結果で、ほぼ閲覧室の資料で利用が足りているようです。分野によってはたびたび改版される資料が多く、利用の中心となるのは新しい資料が多いため、毎年の学生用図書の整備と小まめな蔵書管理が必須と言えます。

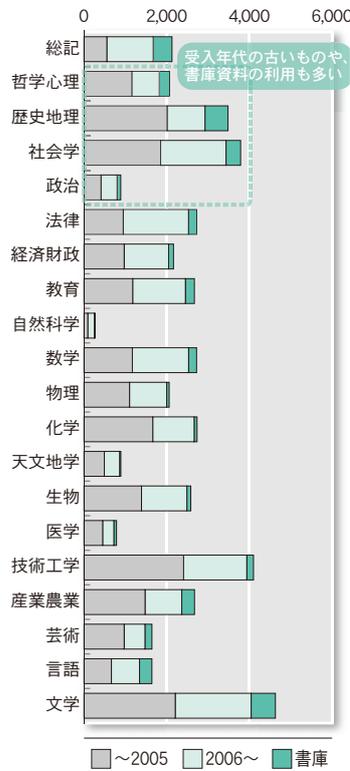
自然科学分野の蔵書数は他分野に比べ少ないものの、同じ資料が何度も利用されるため、貸出回数は他の分野と同じほどあります。

医学図書館では、臨床医学系資料の利用が非常に多く、近刊の需要が高い傾向にあります。看護系図書は需要はあるものの、所蔵冊数がまだ少なく、今後の整備が急がれます。

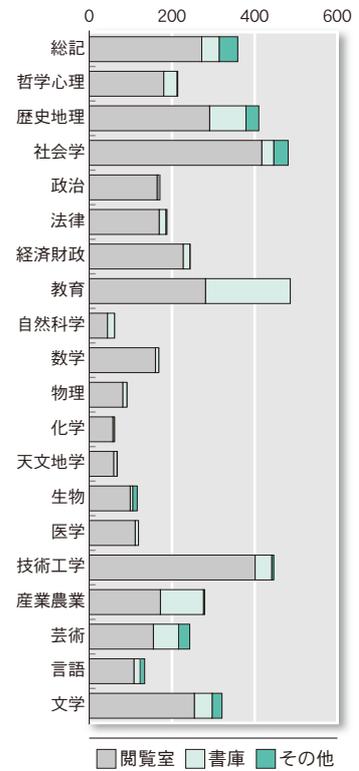
■分野別所蔵冊数(本館)



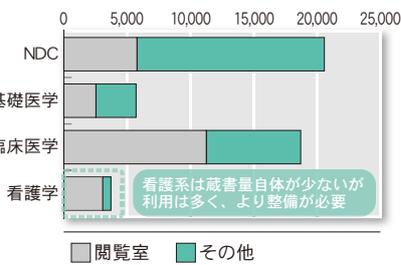
■分野別貸出冊数(本館)



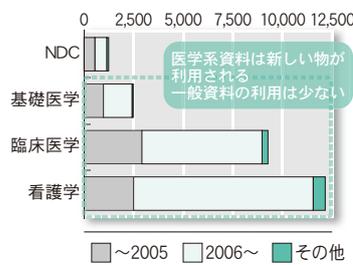
■分野別受入冊数(本館)



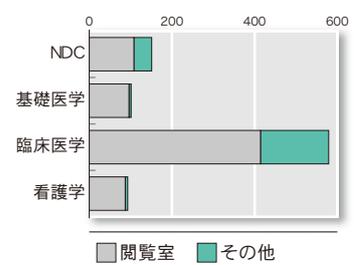
■分野別所蔵冊数(医学図書館)



■分野別貸出冊数(医学図書館)



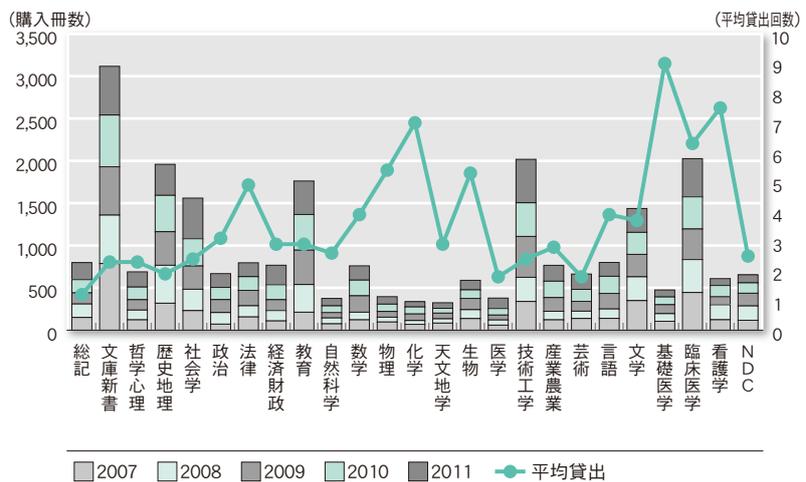
■分野別受入冊数(医学図書館)



■受入と貸出のバランス

右図は、2007年度から2011年度に学生用として購入した分野別の冊数と、その年間平均貸出回数をグラフにしたものです。自然科学系と、基礎医学、看護学で受入と貸出のバランスが崩れていることから、この分野をより充実する必要があると思われます。逆に、歴史地理、社会学、教育、技術工学分野は、購入内容を検討する必要があります。

文庫新書は継続購入しているため、購入冊数は多いが貸出にばらつきがあるのはやむを得ないところです。



統計

■ 雑誌

Periodicals

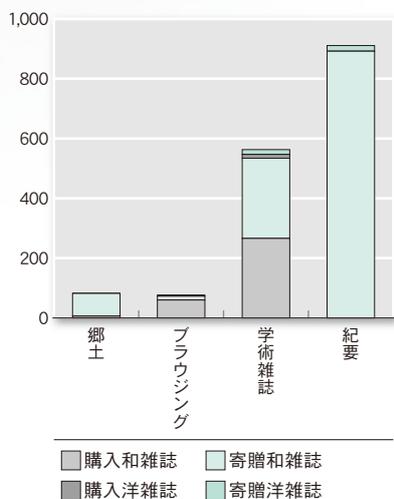
■ 受入種類数

		2007	2008	2009	2010	2011	
本館	和雑誌	購入	665	631	604	590	572
		寄贈・その他	2,578	2,467	2,686	1,325	1,416
	計	3,243	3,098	3,290	1,915	1,988	
	洋雑誌	購入	361	296	263	204	195
		寄贈・その他	131	137	142	62	52
	小計	492	433	405	266	266	
小計	3,735	3,531	3,695	2,181	2,254		
医学図書館	和雑誌	購入	202	191	212	181	212
		寄贈・その他	472	208	271	275	416
	計	674	399	483	456	628	
	洋雑誌	購入	144	142	99	67	63
		寄贈・その他	75	48	68	66	32
	小計	219	190	167	133	95	
電子ジャーナル個別タイトル	-	-	-	49	49		
合計	4,628	4,120	4,345	2,770	2,977		

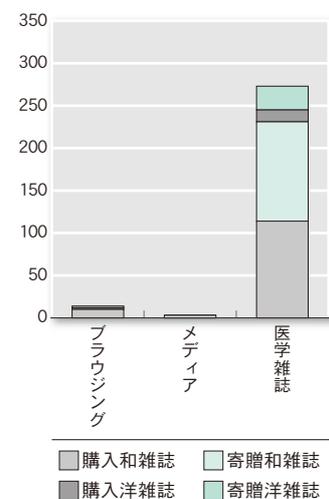
■ 雑誌受入種類数の推移



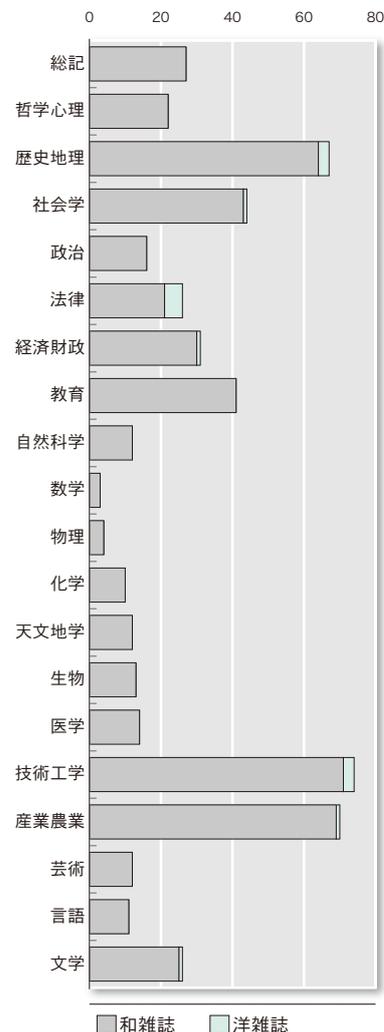
■ 所在別タイトル数 (本館)



■ 所在別タイトル数 (医学図書館)



■ 学術雑誌コーナー分野別タイトル数 (本館)



本館では保管スペースの不足から2010年度に寄贈受入雑誌の見直しを行い、タイトル数を減らしました。雑誌のほとんどは学術雑誌コーナー（本館）及び医学雑誌コーナー（医学図書館）に配架されていますが、コーナーの半数は、学会、官公庁、企業等からの寄贈雑誌が占めています。これらの中には重要な雑誌や入手しにくいものもあり、選定が難しいところです。また、大学紀要についても電子化が進み、CiNiiや機関リポジトリ等から利用が可能なものが増えているため、受入基準の見直しを進めています。

学術雑誌コーナー（本館）に置かれている雑誌の分野別では、自然科学系の学術雑誌が極端に少ないのがわかります。また、ほとんどが和雑誌で、洋雑誌は数えるほどしかありません。電子ジャーナル利用への切り替えが進んでいることが影響しています。

電子ジャーナル

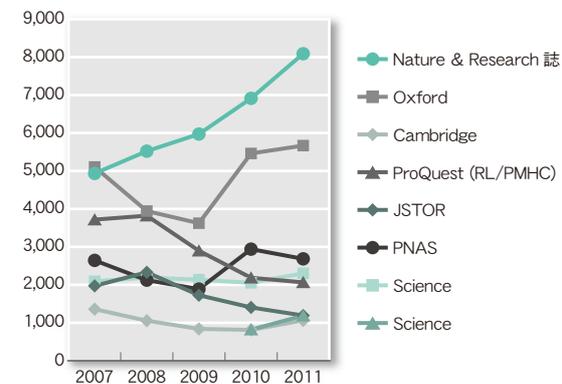
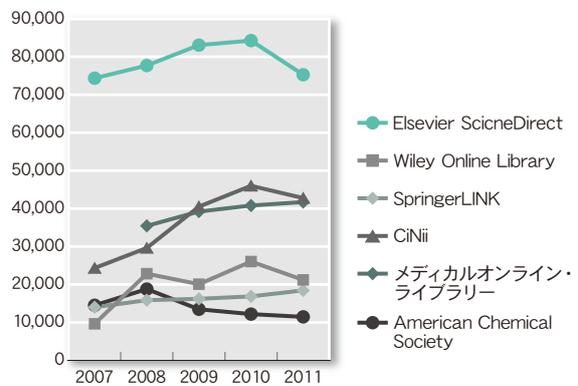
Electronic Journals

■契約タイトル数

電子ジャーナル経費(全学共通経費等)	Cambridge Online Package	洋	257
	Cell	洋	1
	Elsevier : ScienceDirect	洋	2,070
	JSTOR : Arts / Health & General Sciences*	洋	240
	Nature & Research誌	洋	5
	New England Journal of Medicine	洋	1
	Oxford Online Package	洋	165
	ProNAS	洋	1
	ProQuest : Research Library / Health and Medical Complete *	洋	3,110
	Science	洋	1,100
	SpringerLINK	洋	1,900
	Wiley Online Library	洋	1,210
	CiNii (サイニイ)	和	428
	小 計		10,061
部局経費	American Chemical Society (ACS)	洋	38
	American Physical Society (APS)	洋	8
	British Medical Journal (BMJ)	洋	28
	IEEE : CSDL	洋	27
	Karger	洋	75
	Lippincott Williams and Wilkins(LWW)	洋	100
	PsycARTICLES	洋	77
	その他単体	洋	44
	メディカルオンライン*	和	850
	小 計		1,247
	タイトル数 合計		11,308

*アグリゲータ系(複数出版社のタイトルを集めたパッケージ)

■主要電子ジャーナルの利用状況



■ダウンロード数の多いタイトル(Top20)

順位	タイトル	プラットフォーム	ダウンロード数
1	Nature	Nature Publishing Group	5,725
2	Journal of Biological Chemistry		5,474
3	New England Journal of Medicine		4,448
4	Journal of the American Chemical Society	American Chemical Society	2,810
5	PNAS		2,685
6	Science		2,304
7	The Journal of Organic Chemistry	American Chemical Society	2,255
8	Cell	Elsevier	1,187
9	Biochemical and Biophysical Research Communications	Elsevier	1,118
10	医学のあゆみ	メディカルオンライン	1,106
11	Nature Medicine	Nature Publishing Group	1,095
12	Brain Research	Elsevier	1,064
13	The Lancet	Elsevier	1,054
14	Organic Letters	American Chemical Society	1,032
15	Physical Review B	APS	993
16	総合臨床	メディカルオンライン	993
17	Tetrahedron Letters	Elsevier	990
18	日本教育心理学会総会発表論文集	CiNii	923
19	癌と化学療法	メディカルオンライン	907
20	Journal of Nuclear Materials	Elsevier	790

利用できる電子ジャーナルは、昨年度より増加しました。主要電子ジャーナルの利用状況(上段)では、メディカルオンライン、SpringerLINKを除き、昨年よりやや減少しました。また、(下段)では、Nature系が大きな伸びを示しています。

ダウンロードランキングでは、利用の多い雑誌タイトルとプラットフォームを示しています。タイトルベースで見ると、プラットフォームの規模に関係なく利用されているのがわかります。特にNature、JBC、New England Journal of Medicineの3誌は昨年と同様Top3を占め、ダウンロード数は群を抜いています。

全体から見ると国内の電子ジャーナルはまだ少ないですが、臨床の総合誌のフルテキストをダイレクトに利用できることから、医学部でのメディカルオンラインの利用が増えてきています。

統計

■図書館資料費

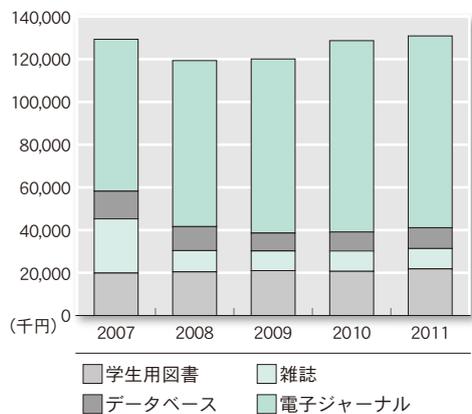
Expenditures for Library Materials

■図書館資料費

		2007	2008	2009	2010	2011
本館	学生用図書	14,745	15,203	15,651	15,376	15,704
	雑誌	8,895	6,227	5,759	5,920	5,666
	小計	23,640	21,430	21,410	21,296	21,370
医学図書館 ^{※1}	学生用図書	5,128	5,226	5,361	5,306	6,127
	雑誌	16,489	3,736	3,461	3,617	3,864
	小計	21,617	8,962	8,822	8,923	9,991
データベース		12,951	11,239	8,372	8,893	9,743
電子ジャーナル ^{※2}		71,146	77,746	81,539	89,590	89,810
合計		129,354	119,377	120,143	128,702	130,914

※1 2007年以前の医学図書館における雑誌経費については、電子ジャーナル購入にかかる部局負担分を含む。
 ※2 学術情報基盤整備計画(P.11参照)にかかる経費相当分

■図書館資料費の推移



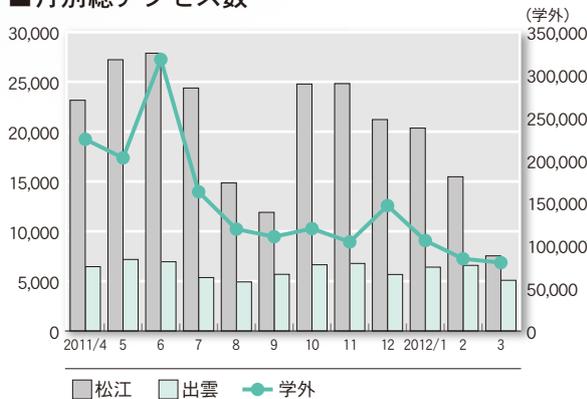
学生用図書、雑誌経費は共通経費が配分されるようになったため、購入規模が維持されています。
 資料費の大部分を占める電子ジャーナル経費は、全学共通

経費や部局負担により維持されています。近年の円高の影響で多少は値上がりが押さえられたものの、依然として価格の上昇が続いています。

■Webサービス

WWW menu

■月別総アクセス数



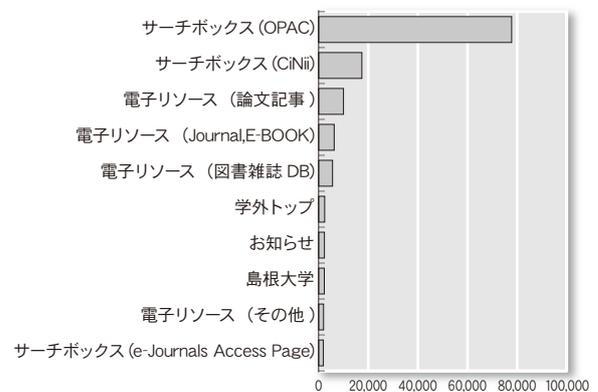
ホームページは、図書館サービスのポータルとして様々なコンテンツを備え、提供しています。情報検索はもちろん、MyOPACを通じて、来館しなくてもサービスが受けられるようになっています。

松江キャンパスは、休業期間中を除き、よく利用されています。特に授業と関連して5月の利用が増えました。出雲キャンパスでは年間を通じた利用があります。

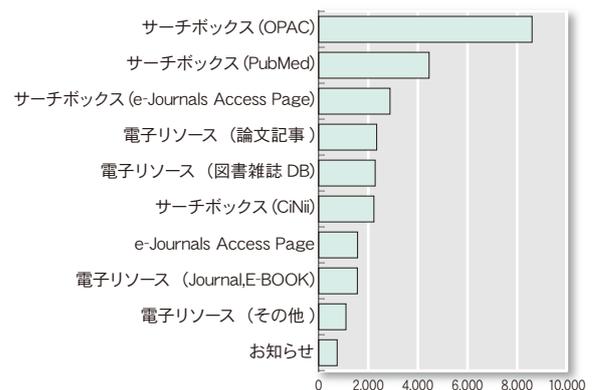
利用の多いメニューを見てみると、両キャンパスともトップページに用意している検索ボックスと、電子リソース(ARB)が上位を占めています。

検索ボックスの中で最も利用が多いのはOPACですが、これに続いて、松江キャンパスでは論文検索用のCiNi、出雲キャンパスではPubMedがよく使われており、それぞれのキャンパスの学部構成、研究分野を反映しています。

■よく利用されたメニュー (松江キャンパス)



■よく利用されたメニュー (出雲キャンパス)



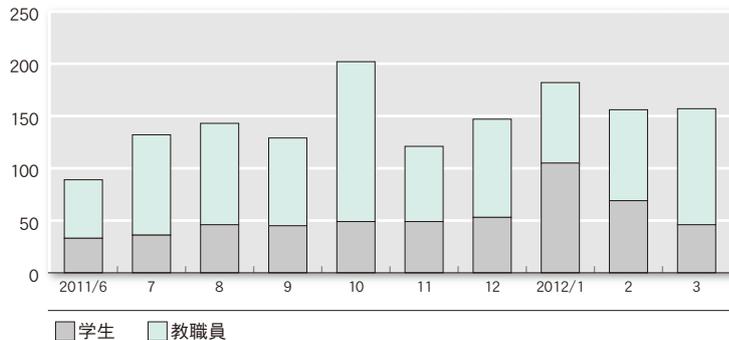
電子リソース(ARB)利用状況

順位	松江キャンパス		出雲キャンパス	
	メニュー	アクセス数	メニュー	アクセス数
1	CiNii	2,416	医中誌Web	7,239
2	Web of Science	2,203	PubMed	3,749
3	島大OPAC	2,103	メディカルオンライン	1,320
4	ジャパンナレッジ (JapanKnowledge)	1,281	e-Journals Access Page	511
5	e-Journals Access Page	1,109	JCR (Journal Citation Reports)	508
6	日経テレコン21	807	CiNii	490
7	朝日新聞「聞蔵IIビジュアル」	714	島大OPAC	458
8	Webcat Plus	530	CINAHL (EBSCO)	324
9	JDreamII	520	Web of Science	311
10	ヨミダス歴史館	514	UpToDate	272

電子リソース(ARB)は、サーチボックスで利用できない有用なDBの利用に活用されています。電子リソース利用状況では、両キャンパスの利用の特徴がよくわかります。出雲キャンパスでは、医中誌Web等がサーチボックスから利用できないため、電子リソースからの利用が多くなっています。

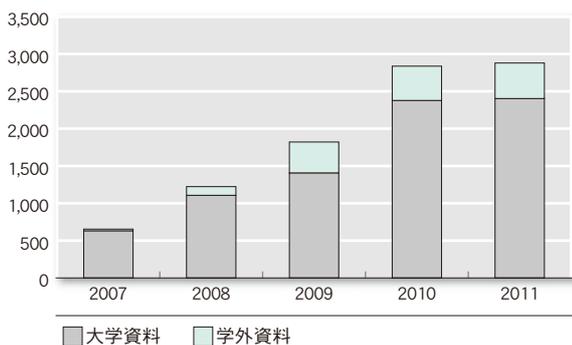
EZproxyは、学外から本学契約のDB、電子ジャーナルを利用できるサービスです。家や出張先からでも利用できるため、学生よりも教員のアクセスが多くなっています。サービスを開始したばかりですが、今後も利用が伸びていくと思われます。

EZproxyログイン件数

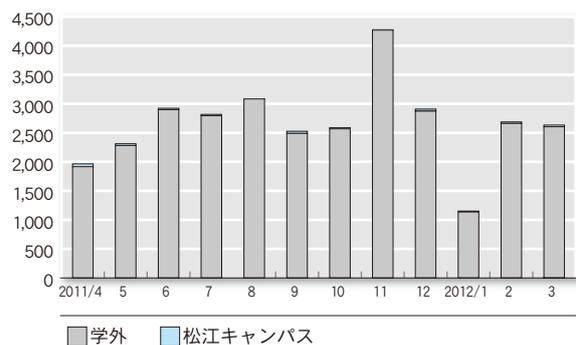


順位	サイト	件数
1	AMS	357
2	PubMed	297
3	ScienceDirect	293
4	e-Journals Access Page	285
5	Springer Link	142
6	CiNii	141
7	Google Scholar	108
8	島根大学附属図書館	70
9	Nature	44
10	EBSCO	43
11	ACS	41
12	J-STAGE	40

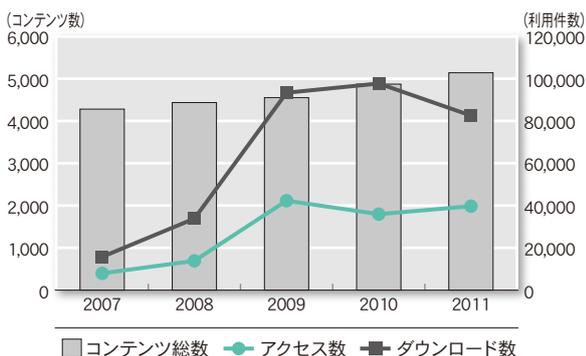
デジタル・アーカイブ収録コンテンツ数



デジタル・アーカイブ月別アクセス数



島根大学学術情報リポジトリ



デジタル・アーカイブシステムは、本学所蔵の貴重資料のほか、学外から電子利用の寄託を受けた資料について電子化し、ホームページで閲覧できるようにしたものです。これまでに、2,879タイトル、156,696コマの電子化を終えています。

月別アクセス数は、昨年度から大幅に増加しました。学外からのアクセスが非常に多く、地域資料の利用促進や、学外研究者からの需要に応えています。

島根大学学術情報リポジトリ収録コンテンツ数は順調に伸びており、2011年度は5,000件を超え、5,140コンテンツとなりました。ダウンロード数は昨年に比べ減少し、82,550件でした。

統計

相互協力

Interlibrary Lene

■文献複写件数

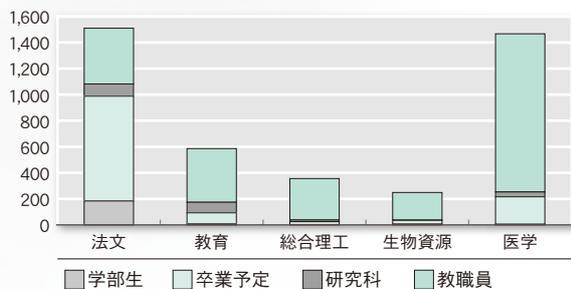
		2007	2008	2009	2010	2011
本館	受付	1,263	1,260	1,469	1,243	1,294
	国内依頼	4,018	4,039	3,666	3,954	2,910
	海外依頼	16	25	9	12	8
医学図書館	受付	3,328	2,687	2,422	1,994	2,182
	国内依頼	4,062	3,190	3,303	1,950	2,115
	海外依頼	5	13	15	2	0

■現物貸借件数

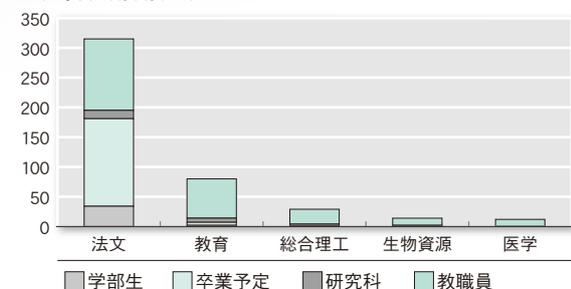
		2007	2008	2009	2010	2011
本館	貸出	224	266	307	368	413
	借受	332	501	565	632	478
医学図書館	貸出	26	17	9	9	41
	借受	14	24	29	21	18

※県内公共図書館との貸借分を含む。

■文献複写依頼の内訳



■現物貸借借受の内訳



文献複写受付件数は横ばいに近い状況ですが、4年前と比べるとやや減少しました。また、依頼件数も年々減少しています。この傾向は、紙ベースの利用が多い本館に比べ、電子ジャーナルの利用が多い医学図書館で顕著です。電子ジャーナルや機関リポジトリによる電子資料の利用が普及したことの表れで、中四国平均も同様の動きを示しています。

学部別のグラフを見ると、法文学部と医学部が極端に多い状況です。人文科学系では広範囲な分野の資料が必要とされていること、電子化が遅れていること、医学系では多数の契約電子ジャーナルがあるにもかかわらず、欲しい論文が十分に含まれていないことなどが考えられます。

本館の現物貸借借受件数はここ数年増加傾向にありましたが、2011年度は減少しました。学部別のグラフでわかるように、法文学部が圧倒的に多く、中でも遺跡関連資料の依頼が多いのが特徴です。特定の利用者からの大量の依頼が減ったことが原因のようですが、遺跡リポジトリの普及も影響して

■文献複写受付(提供)件数の推移



■文献複写依頼(取寄)件数の推移



■現物貸借貸出件数の推移



■現物貸借借受件数の推移



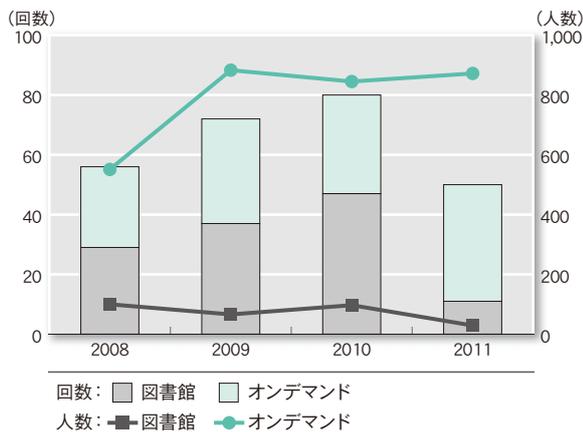
いると思われます。

貸出件数が年々増加しているのは、県内公共図書館への貸出が増えているからです。2011年度は、148冊と3分の1を占め、地元からの期待が大きいです。

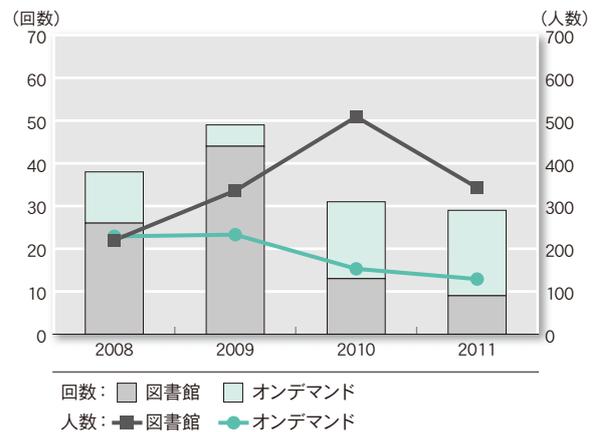
■ 学術情報リテラシー講習会

			2007	2008	2009	2010	2011
本館	図書館主催	回数	13	29	37	47	11
		参加者数	107	100	66	97	29
	オンデマンド	回数	37	27	35	33	39
		参加者数	636	551	883	845	872
医学図書館	図書館主催	回数	7	26	44	13	9
		参加者数	66	220	336	509	343
	オンデマンド	回数	25	12	5	18	20
		参加者数	268	229	233	153	129
参加総数			1,077	1,100	1,518	1,604	1,373

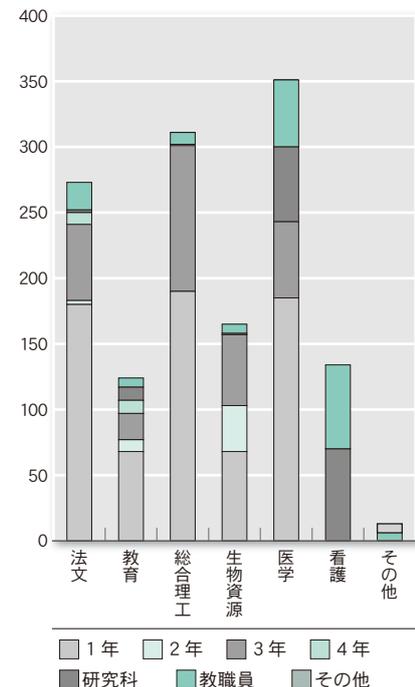
■ 本館講習会開催状況



■ 医学図書館講習会開催状況



■ 講習会参加者内訳



本館と医学図書館では、学術情報リテラシー講習会の開催方法や内容が若干異なります。学部により必要とされる資料や利用方法が異なるため、それぞれのキャンパスに適応した講習の内容や方法を模索しながら開催しています。

本館では、図書館が主催する各種講習会に力を入れてきましたが、参加者が増えないため、オンデマンド講習会（授業と連動した講習会）中心に切り替えました。年々教員からの申込みが増えており、参加者の総数はそう変わらない状況になっています。

医学図書館でも、オンデマンド講習会が定着しつつあります。参加者数は減少しましたが、需要が増え、開催回数が増加しています。一方、図書館主催の講習会は、回数・参加者数ともに減少しました。開催方法や広報の見直しが必要です。

学部別の参加者内訳を見ると、法文学部・総合理工学部・医学部の参加が多くなっています。図書館の資料そのもの、あるいは電子ジャーナルや文献検索の利用が多い学部はまず講習をしっかりと受け、その後の図書館利用に繋がっていくようです。

学年別では1年と3年の参加が多いのがわかります。本館では、まず1年のうちにオンデマンド講習会を通じて図書館ツアーやOPAC検索など、図書館の基本的な利用方法を学ばせるという考え方が定着してきており、4月から6月にかけては講習会で賑わいます。2年以上になると、各分野に合わせたデータベースの利用方法を中心としたものとなります。授業や論文執筆に向けて専門分野の論文検索の必要が出てくる3年生になると再び参加者が増えます。

医学図書館では、大学院生や教員向けの講習に力を入れており、本館に比べ参加者が多いのが特徴です。

図書館日誌

図書館日誌 (2011.4~2012.3)

日付	全学・松江キャンパス(本館)	出雲キャンパス(医学図書館)
4月26日	第1回本館運営専門委員会	
4月27日	不用雑誌無料提供会(28日まで)	
5月9日	コンシェルジュ活動開始	
5月11日	新任教員図書館ガイダンス	
5月17日	第1回附属図書館運営委員会	
5月25日	学生選書ツアー	
6月6日	館内展示「世界の子ども写真展」(8月31日まで)	
6月8日		第1回医学図書館運営委員会
7月5日	開館時間に関するアンケート実施(24日まで)	
9月20日	学生協働交流シンポジウム「図書館で未来を語ろう-大学図書館における学生協働の可能性-」(21日まで 会場:山口大学)	
9月26日	環境整備	
9月29日		中学生職場体験 2名を受け入れ(30日まで)
10月7日	館内展示「明治近代法の成立と松江地裁判治文庫」(12月末まで)	
10月11日	第2回附属図書館運営委員会 第2回本館運営専門委員会	
10月27日		第20回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会(医図懇) 総会(会場:済生会江津総合病院)
10月28日	AVルームリニューアルオープン	
11月9日	第7回蔵書リユース市(11日まで)	
11月10日	中学生職場体験 4名を受け入れ	
11月26日	全国遺跡資料リポジトリ・ワークショップ(会場:NII)	
12月2日	第3回本館運営専門委員会	
12月9日	教員懇談会(生物資源科学部)	
12月12日		第2回医学図書館運営委員会 教員懇談会(医学部)
12月17日	全国遺跡資料リポジトリ・ワークショップ(会場:九州大学)	
12月20日	資料探訪セミナー「明治近代法の成立と松江地裁判治文庫」 教員懇談会(総合理工学部)	
12月22日	教員懇談会(教育学部)	
12月27日	教員懇談会(法文学部)	
1月13日	第3回附属図書館運営委員会	
3月21日	第4回附属図書館運営委員会	

刊行物

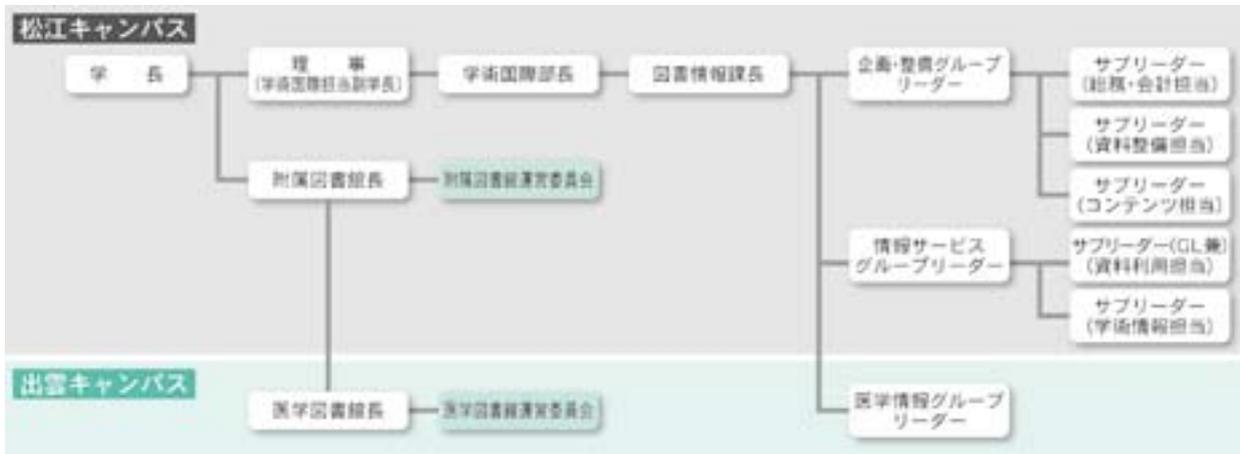
2011年7月	島根大学附属図書館年報2010 A4判、27P.
2011年9月	図書館報「淞雲」第12号 A4判、20p. 特集:レポート・論文作成 ほか
2012年3月	図書館報「淞雲」第13号 A4判、20p. 特集:そうだ、図書館へ行こう ほか
2012年3月	利用案内2012(本館、医学図書館)
月刊	LiMe:ライム (No.21~32)
月刊	インフォアクセス (Vol.7 No.4~Vol.8 No.3)

新聞・テレビ等の報道

2011年 4月17日	ハーン関連図書出版	熊本日日新聞
2011年 5月22日	ハーン関連図書出版	読売新聞
2011年 11月9日	第7回蔵書リユース市	マーブルTV(山陰ケーブルテレビジョン)
2011年 12月21日	資料探訪セミナー	マーブルTV(山陰ケーブルテレビジョン)
2012年 1月16日	全国遺跡資料リポジトリ・ワークショップ	文教ニュース No.2170/71
2012年 2月6日	全国遺跡資料リポジトリ・ワークショップ	文教ニュース No.2175

■ 組 織

【2011(平成23)年 1 月改正】



■ 人事異動

【2011 (平成23) 年4月1日発令】

氏 名	異動後	異動前
田 籠 博	附属図書館長 (兼務)	法文学部教授
小 林 奈緒子	採用 学術国際部図書情報課事務職員(企画・整備G資料整備担当)	
飯 田 啓 子	再雇用更新	学術国際部図書情報課図書職員(企画・整備Gコンテンツ担当)
加 本 純 夫	再雇用更新	学術国際部図書情報課図書職員 (医学情報G)
吉 井 紀 子	再雇用更新	学術国際部図書情報課図書職員 (医学情報G)

【5月1日発令】

氏 名	異動後	異動前
落 合 早 紀	採用 学術国際部図書情報課有期雇用職員(企画・整備Gコンテンツ担当)	

【7月1日発令】

氏 名	異動後	異動前
内 田 聡	財務部施設企画課係長	学術国際部図書情報課係長
山 崎 文 子	学術国際部図書情報課係長	財務部施設企画課係長
小 林 奈緒子	学術国際部図書情報課事務職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課事務職員(企画・整備G資料整備担当)

【2012(平成24)年3月31日発令】

氏 名	異動後	異動前
板 谷 茂	退職 大阪大学附属図書館図書館企画課長 (4/1付け)	学術国際部図書情報課長
園 山 典 子	退職	学術国際部図書情報課係長
富 岡 治 明	医学部教授 (附属図書館医学図書館長兼務の終了)	附属図書館医学図書館長 (兼務)



**SHIMANE
UNIVERSITY LIBRARY**
Annual Report
2011

島根大学附属図書館年報

2012年(平成24年)7月発行

発行/島根大学附属図書館

本館/〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL 0852-32-6083 FAX 32-6089
医学図書館/〒693-8501 出雲市塩冶町89-1 TEL 0853-20-2092 FAX 20-2095